

決算説明会資料

第49期（平成24年4月～平成25年3月）の業績の概況	・・・・・・・・	1	～	5
第50期通期（平成25年4月～平成26年3月）の業績見通し	・・・・・・・・	6	～	10

平成25年 5 月

株式会社 **ナガワ**

平成24年度の（連結）業績概況

1.建設市場全般

建設市場は民間設備投資に力強さがなかったものの、住宅投資および公共投資がけん引し、全般的には堅調に推移した。

2.ユニットハウス市場および建設機械レンタル市場

ユニットハウス市場は被災地の復興需要が徐々に表れてきたものの、前年の応急仮設住宅特需を埋めるには至らなかった。
 北海道の建設機械レンタル市場は、民間設備投資が振るわないことに加え、予算の東北シフトの影響により、公共事業の縮小に見舞われており、前年割れが続いている。

2.当社の主な取り組み

- (1) プレハブ建築（モジュール建築）・システム建築の展開強化
- (2) 復興需要の取り込み
- (3) レンタルシェア拡大と値戻し
- (4) 海外展開－インドネシア・タイにそれぞれ現地法人設立
- (5) 業務効率推進－子会社株式会社建販の備品事業統合



図-1

連結売上高の推移

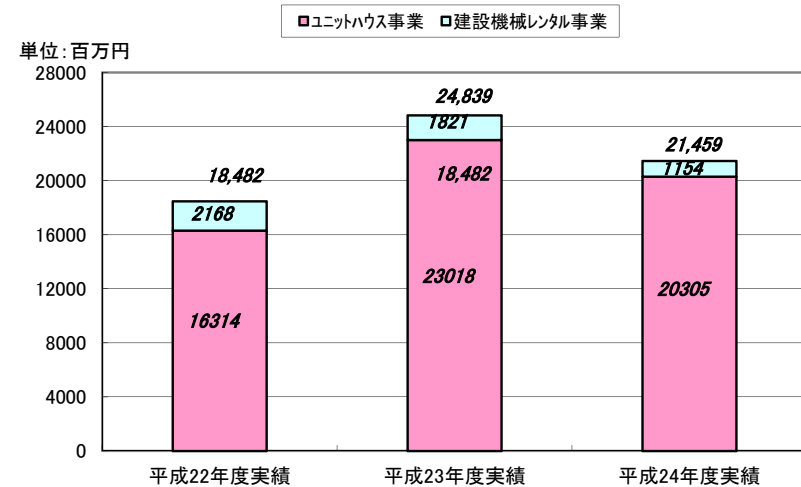
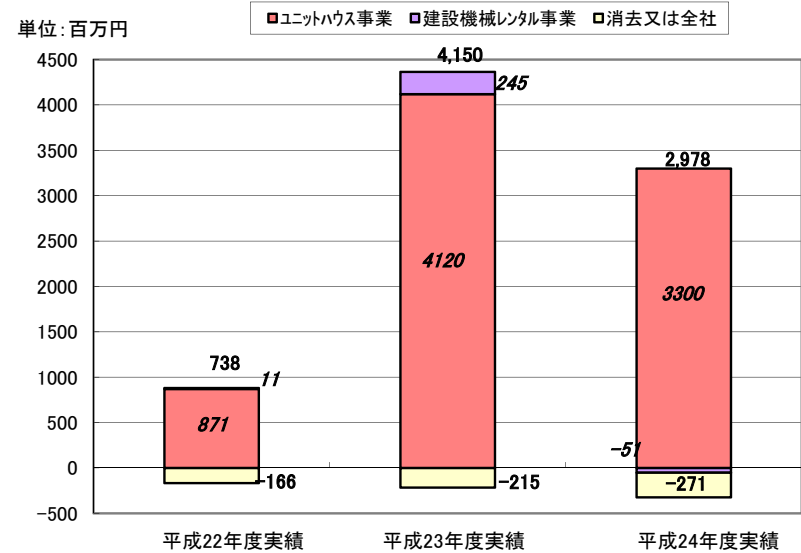


図-2

連結営業利益の推移



3.ユニットハウス事業

(1) 販売

- ① 本建築物の受注拡大（モジュール建築・システム建築）
- ② セールスレディによる展示会活性化
- ③ Web事業推進（品揃え充実他）
- ④ 被災地復興支援（平成23年度 応急仮設住宅工事販売売上高11億円）



ブラジル：（工事名）OSX社新港開発工事現場内エンフィル社仮設現場事務所



図-3 ユニットハウス事業売上高推移

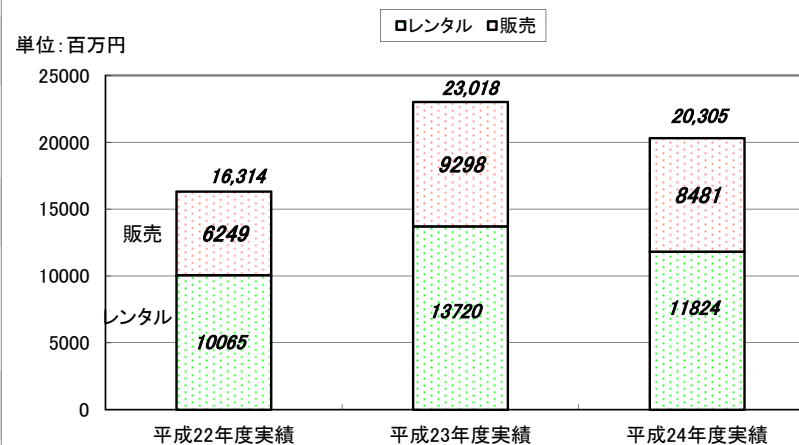
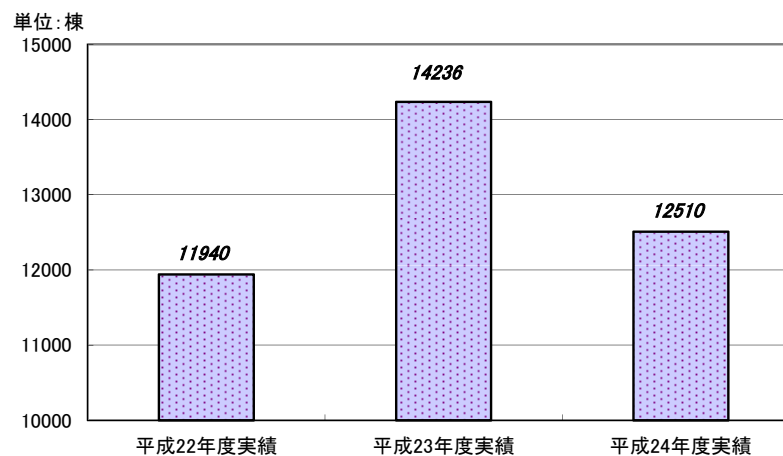


図-4 ユニットハウス販売棟数推移



(1) レンタル

- ① 値戻しの継続と稼働率向上等実施
- ② シェア拡大策 ユニットハウス増産によるレンタル供給拡大と
備品付帯工事一括受注
- ③ 復興地支援（平成23年度 応急仮設住宅工事レンタル売上高29.3億円）



図-5 期末ユニットハウス貸与保有棟数

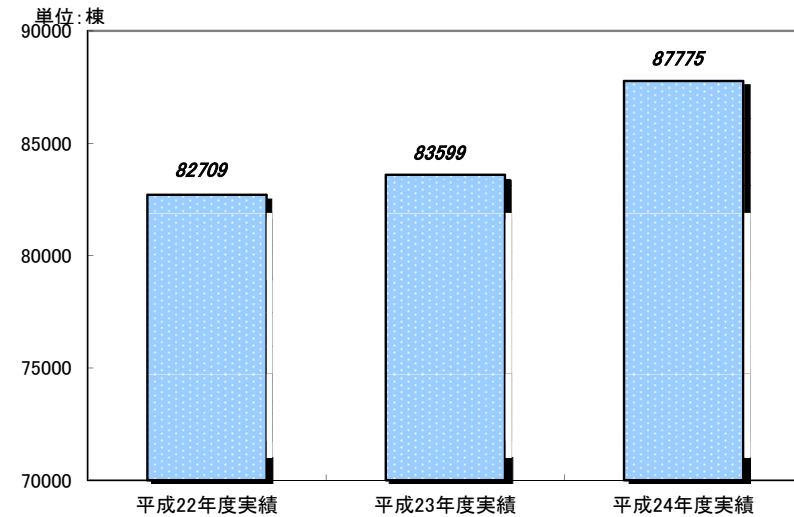
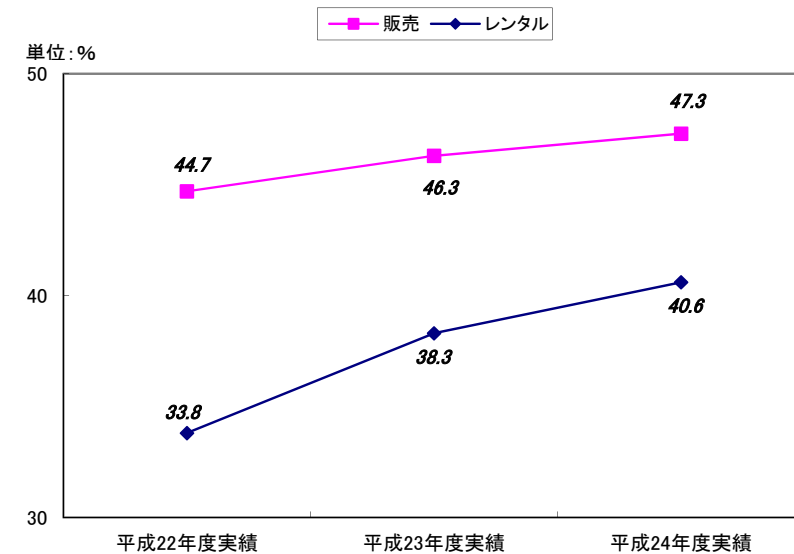


図-6 ユニットハウス事業販売レンタル粗利益表



4.建設機械レンタル事業

(1) 業界動向

北海道南部の建設市場は、引続き公共工事が削減される中、民間設備投資も低調に推移した。

(2) 当社の取り組み

①センター集約によるコストダウン

②機械整備の内製化と外販拡大
(10月にカーコンビニ倶楽部伊達インター店開業)

図-7 建設機械レンタル事業売上高推移

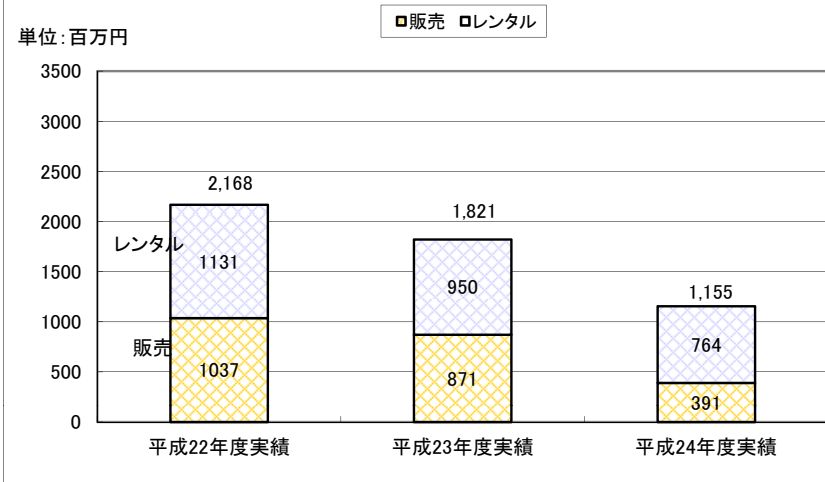
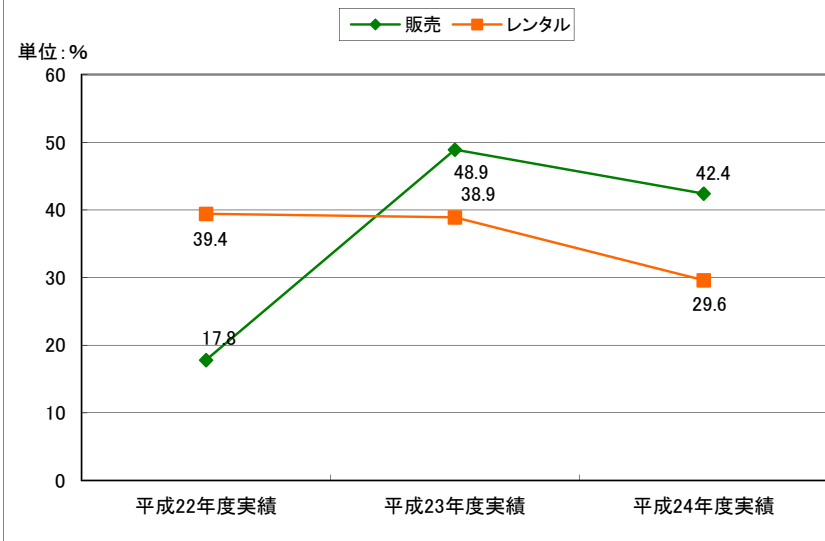


図-8 建設機械レンタル事業販売レンタル粗利益



5. 設備投資

(1) 貸与ハウス

中古販売減少により更新投資は横ばいだったが、レンタルシェア拡大により、新規投資が拡大

(2) 貸与機械

大型建機の更新投資を実施

(3) 社用資産

ロボット導入（3月結城工場）

6. 減価償却費

社用資産は工場建屋の更新投資が今期にずれたことにより減少した。
貸与資産は積極的に投資したことから、前年を上回った。

図-9

連結設備投資の推移

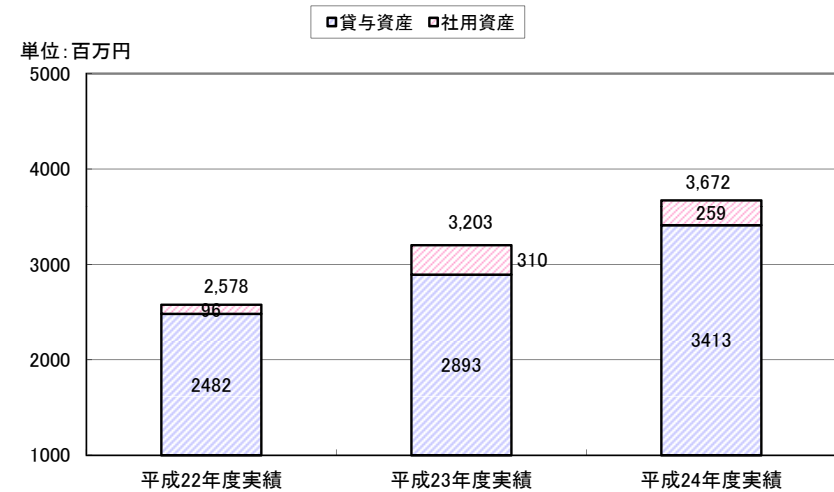
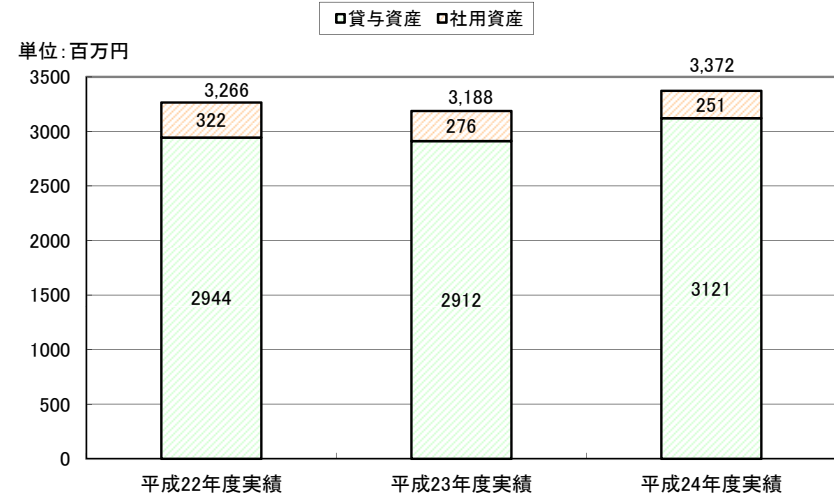


図-10

連結減価償却費の推移



今期の見通し

1.建設市場全般ー前年度に続き好調

- ・住宅投資は復興需要が下支えするとともに、消費税増税前の駆け込み需要が見込まれる
- ・民間設備投資は、金融緩和・円安定着の企業業績好転による設備投資の活性化が期待される。
- ・公共投資は補正予算の執行が本格化してくる。

2.当社の主な取り組み

- (1) プレハブ建築（モジュール建築）・システム建築の拡大
- (2) 復興需要の取り込み
- (3) レンタルシェア拡大
- (4) 海外展開ーブラジル・インドネシア・タイに次ぐ進出国の選定
- (5) 業務効率推進ー I Cタグ管理拡大（備品）

図-11

連結売上高の推移

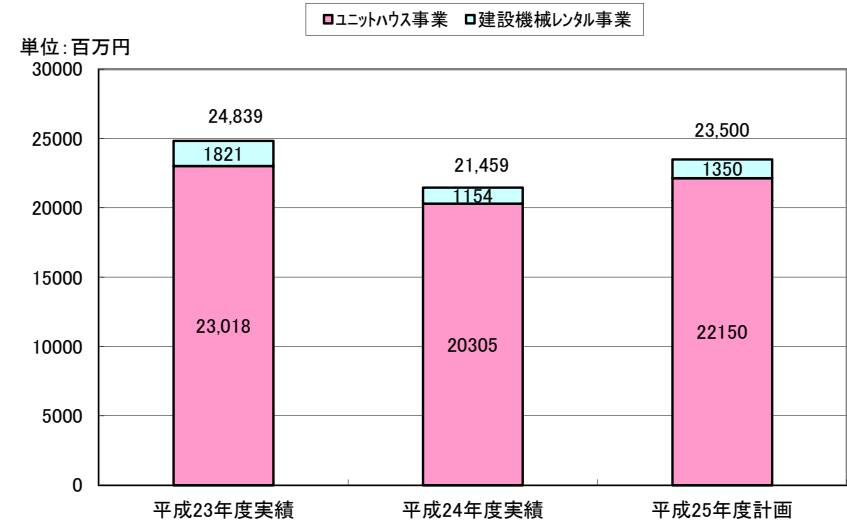
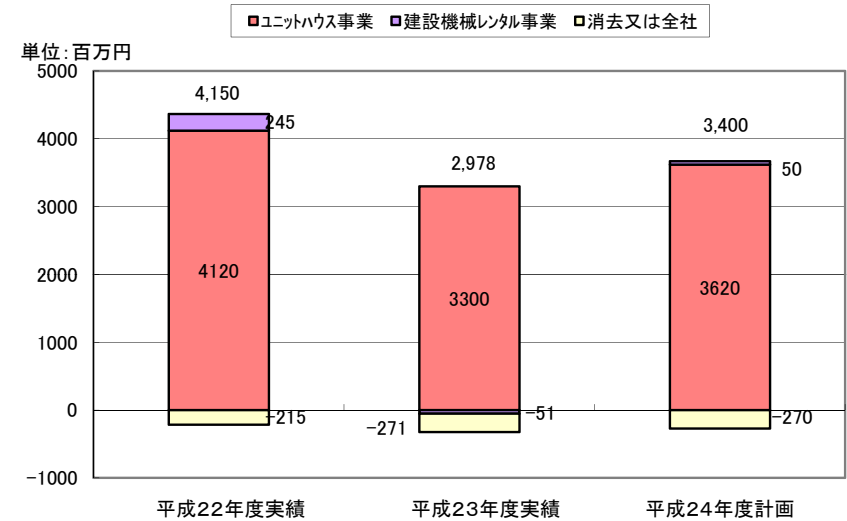


図-12

連結営業利益の推移



3.ユニットハウス事業 (1) 販売

- ① 大型建築物の受注推進[プレハブ建築（モジュール）・システム建築]
- ② 被災地復興支援
- ③ セールスレディによる展示場運営活性化



図-13 ユニットハウス事業売上高推移

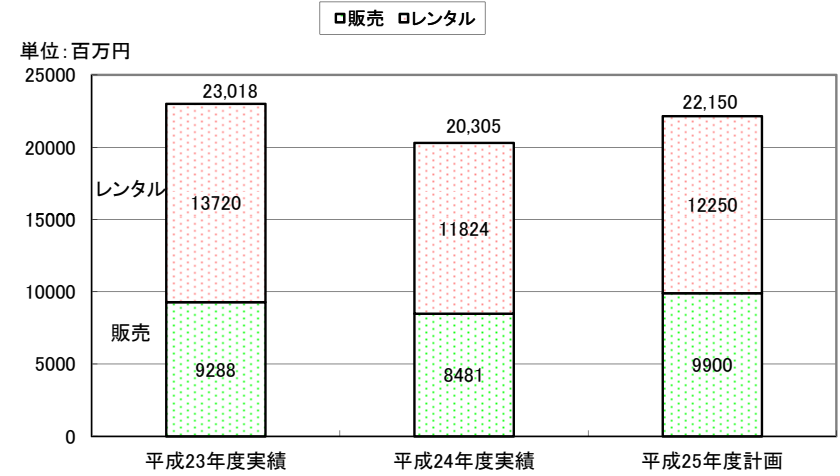
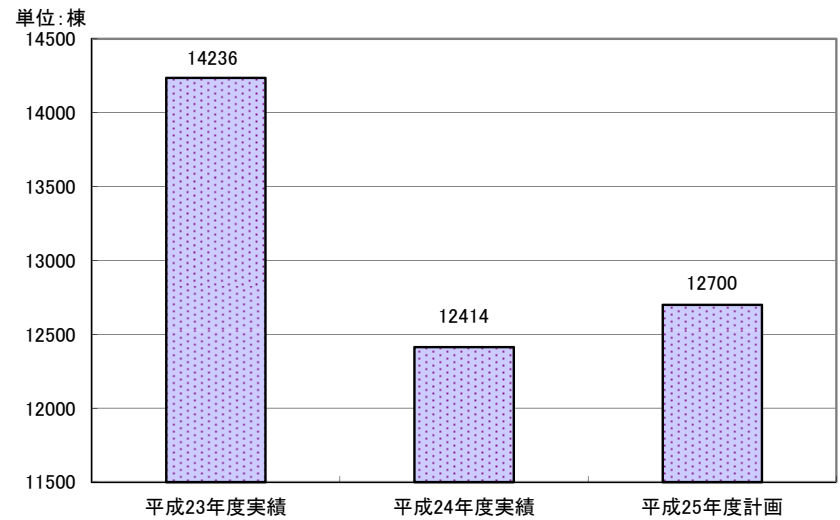


図-14 ユニットハウス販売棟数推移



(2) レンタル

- ① ユニットハウス増産によるレンタル供給拡大と、備品・付帯工事サービス強化による一括受注でレンタルシェア拡大と値戻しを継続
- ② 復興地支援
- ③ 物流網の最適化による業務効率向上

図-15 ユニットハウス期末貸与保有棟数

単位:棟

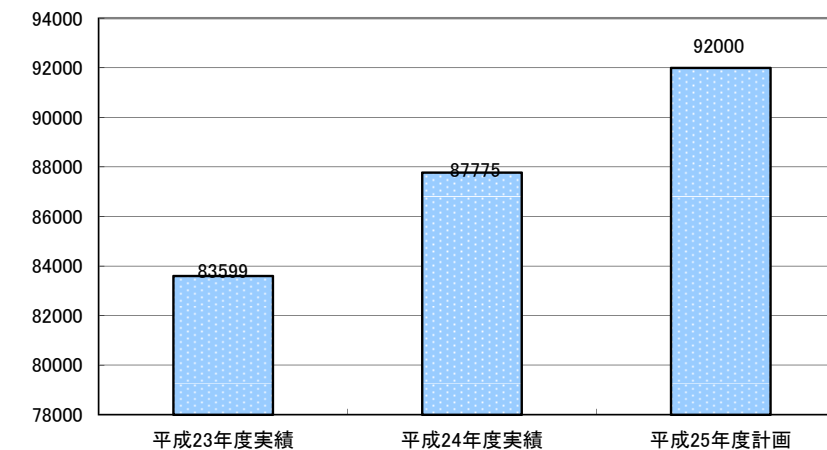
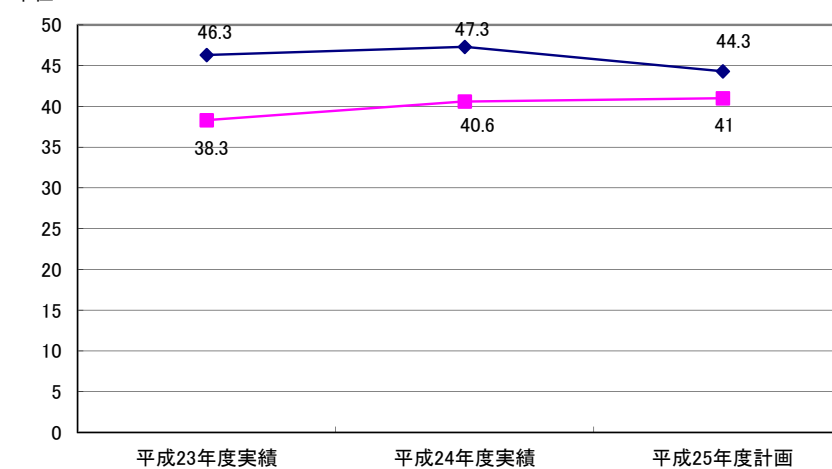


図-16 ユニットハウス事業販売レンタル粗利益率推移

単位: %



4.建設機械レンタル事業

(1) 業界動向

民間は低迷が継続するが公共工事が補正予算の効果で若干回復する見込み

(2) 当社の取り組み

- ① 機種別採算・稼働管理の徹底
- ② 機械整備事業拡大

図-17 建設機械レンタル事業売上高推移

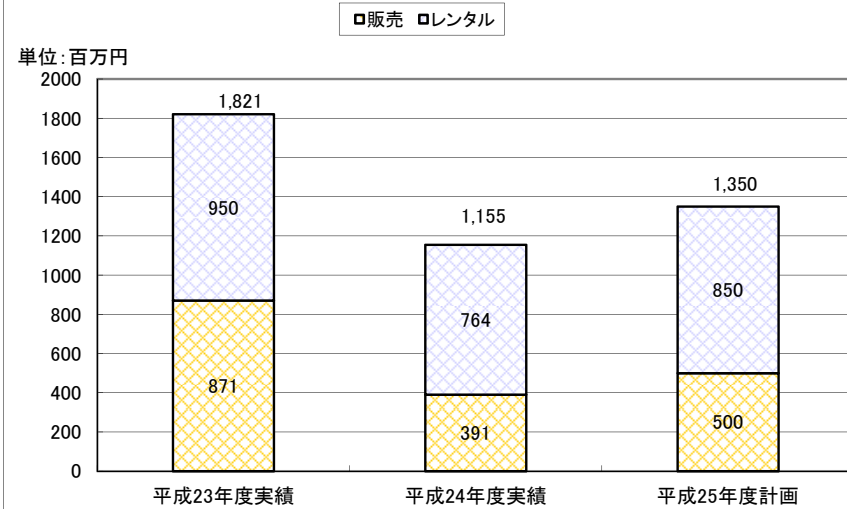
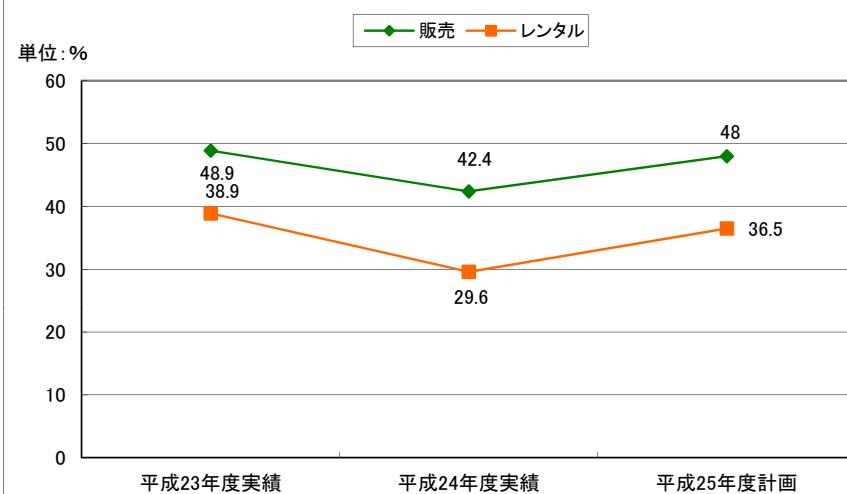


図-18 建設機械レンタル事業販売・レンタル粗利益率推移



5.設備投資

(1) 貸与ハウス

シェア拡大による新規投資増加

(2) 貸与機械

大型投資一巡

(3) 社用資産

① ロボット導入（東員・仙台各工場）

② 仙台・京都各工場の建屋更新投資

図-19

設備投資の推移

貸与資産 社用資産

単位：百万円

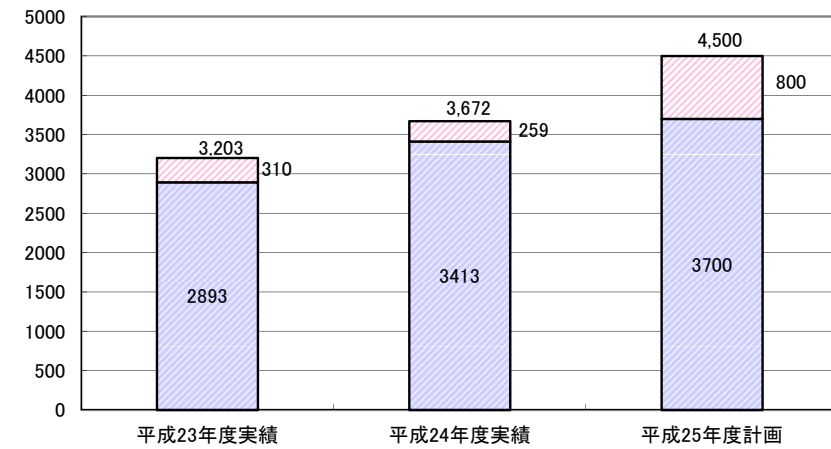


図-20

減価償却費の推移

貸与資産 社用資産

単位：百万円

